

キネステティック・モビリゼーション

看護師による回復支援 — ウルム大学病院における調査研究

謝辞

患者が可動性を獲得するための「動きとモビリゼーション」に関する調査研究は、病院内のさまざまな部門の多数の人々の支援と助言なしには実施できないものです。

エルゼ・クレーナー・フレゼニウス財団の助成により、私たち看護師が毎日実践しているメソッドについて、学術的基準を導入した上で、かつ日々の看護業務内で研究することができました。

したがって、エルゼ・クレーナー・フレゼニウス財団、とくに看護師による研究を支援するようご尽力くださったマンフレッド・シュペッカー博士に特に御礼申し上げます。

また、「バイオメトリクス・医療資料部門」の協力なくしては、このような形での研究活動の実現などあり得ませんでした。ヴィルヘルム・ガウス (Wilhelm Gaus) 教授、マルティナ・クローン (Martina Kron) 博士、ザビーネ・ロイ (Sabine Loy)、シルヴィア・ザンダー (Silvia Sander) のかけがえのない援助とサポートに感謝します。

当初から精力的に支援していただきやる気を増大させ叱咤激励をしてくださった心臓外科のアンドレアス・ハンネクム (Andreas Hannekum) 教授とそのスタッフの方々に感謝を捧げます。

そして誰よりも、本研究に参加してくださった患者の皆さまにとりわけ感謝しています。ご協力をとてもありがたく思いました。

本研究を忍耐強く、献身的に、建設的な批判と高い専門性および不屈の精神で遂行してくれた西 B2 病棟の看護師全員に特別な感謝を捧げます。皆さんがいなければこの研究は不可能でした。

ウルム看護学校長のエリザベス・マックアヴィニュー (Elisabeth Mc Avinue) 校長は、英語に造形が深く文献分析をサポートしてくださいました。

私たちは多くのことを学び、これからさらに多くのことを学べます。保健医療制度は転換期にあり、それに伴い関係者への期待や要求も変化していきます。本研究は、日々ルーチンとして行なっていることを振り返ることと、得られた知見を実践に移すことを看護師に教えてくれました。